

## 小学生、保護者および大学生のランドセルに対する意識と視覚評価

三木 幹子, 志賀 智美, 植木 由香

(2010年11月12日受理)

### Consciousness of Elementary School Students, Parents, and University Students toward Japanese School Bags and Visual Sensory Tests

Motoko MIKI, Tomomi SHIGA, Yuka UEKI

#### Abstract

Targeting elementary school students, parents and university students, I conducted surveys on their consciousness toward Japanese school bags and visual sensory tests regarding the images of the bags.

The results are as follows. Elementary school girls want to use bags with their favorite colors, while elementary school boys are not interested in the color of the bags and have no desire to assert themselves through their clothes. Girls prefer pastel-color bags, and boys like black, indicating that boys are more conservative.

Comparison of consciousness toward school bags between parents and university students revealed that university students were more conservative toward children's school bags and clothes, while parents tended to respect children's individualities.

There was commonality in female university students' emphasis on the fashion feature of school bags and elementary school girls' desire to assert themselves through colorful bags.

---

## I 緒言

ランドセルは日本において、長い間小学生の通学用鞆として採用されており、まさに小学生の象徴という印象が定着している。従来、ランドセルの色は、女子が赤、男子が黒を使用することが主流であったが、近年、ジェンダーフリーや子供の個性尊重等の意識の高まりもあり、様々な色のランドセルで通学する児童を目にするようになった。また製造メーカー、大手小売店で取り扱うランドセルのカラーバリエーションも年々多くなっており、最近ではランドセルの24色展開が話題となった。

カラーランドセルは定番アイテムとなりつつあるが、実際にランドセルを使用する小学生およびその親世代は、ランドセルの色に対してどのような意識を持っているのであろうか。

本研究では、女子・男子小学生とその保護者および男女大学生を対象に、ランドセルの使用実態、ランドセルに対する意識を調査し、カラーランドセルに対する世代と性別による違いを比較する。また、カラーランドセル画像を用いて、小学生と親世代のランドセルへの嗜好、およびランドセルの色とデザインによるイメージ変化を考察する。

## II 調査方法

1. 調査時期 2009年6～7月
2. 調査対象 被験者は小学生43名（女子19名、男子24名）、小学生の子供を持つ保護者32名（母親29名、父親3名）、および20歳～22歳の大学生37名（女子学生29名、男子学生8名）、合計112名である。
3. 調査内容 質問紙法によるアンケート調査を実施した。

### (1) ランドセルに対する使用実態調査

小学生と保護者に対して、現在使用しているランドセルの詳細（色、素材、購入先、価格他）、ランドセルに対する好感（好き・嫌い）、満足度等の使用実態に関する質問に回答してもらった。

### (2) ランドセルに対する意識調査

ランドセルに関して日頃不満に思っていること、意見、また色の好み等についての意識質問を小学生は10項目、保護者と大学生用に13項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった（評価に用いた質問項目は小学生は表1、保護者・大学生は表2参照）。

### (3) ランドセル画像の視覚評価

色および柄の異なるランドセル画像17種を用いて視覚官能評価を行った。グラフィックソフ



図 1 ランドセル画像1~17

ト (Photoshop) を用いて、11色のランドセル画像1～11、および水玉、チェック、キャラクター柄他を合成した画像12～17を作成した (図1)。

1) 小学生と保護者を対象に、ランドセル画像試料の中から、「好きなランドセル」「嫌いなランドセル」「6年間使えるランドセル」等の各質問について、該当すると思う画像をそれぞれ3つまで選んでもらった。

2) 大学生の被験者を対象に、ランドセル画像のイメージを表す形容語対16組を設定し、各画像について視覚官能評価を行った。評価にはSD法を用い、5段階尺度で評価してもらった。(評価に用いた形容語対は表3を参照)。なお、大学生の画像試料12～15については、色のイメージを排除し、柄による印象を評価してもらうため、黄・赤・青の3色の画像をまとめて1つの画像として評価してもらった。

### Ⅲ 結果・考察

#### 1. ランドセルに対する使用実態調査

小学生が現在使用しているランドセルの色については、女子の58%が「赤」と答えた。赤以外の回答はピンク系であり、女子生徒は赤またはピンク系のランドセルを使用していることがわかる。男子生徒の場合、黒のランドセルを使用している生徒が8割を占めた (図2)。

保護者に対して、子供にランドセルを使わせる理由を回答してもらった結果、「小学生といえばランドセルが常識」「校則で決まっている」と回答した人がほとんどであった。また、ランドセルを購入した際に重視したことについては、「丈夫さ」「使いやすさ」が各約3割を占めた (図3)。保護者にランドセルの良い点を挙げて貰ったところ、「両手が使える」という回答が圧倒的の多数を占めたことから、ランドセルの機能性が重視されていることがわかる。

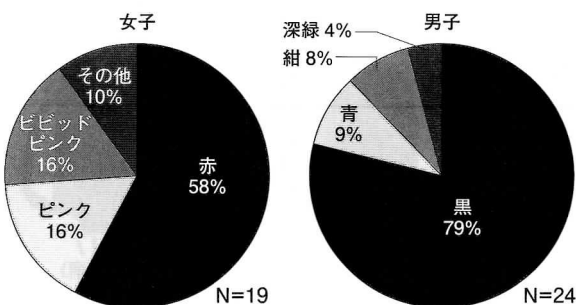


図2 現在使用しているランドセルの色 (小学生)

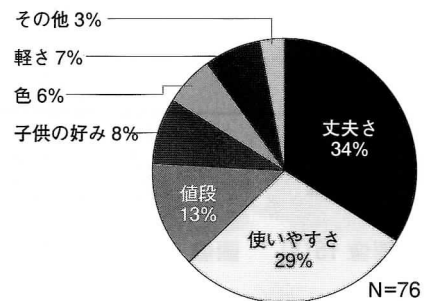


図3 ランドセルを購入する際に重視したこと (保護者)

## 2. ランドセルに対する意識調査

## (1) 小学生の意識

## 1) 因子分析

小学生のランドセルに対する意識の基本因子を抽出するために、10個の質問項目を変数に、男女小学生43名 of 全評価を観測回数として因子分析を行った。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子

表1 因子分析（意識調査/小学生）

変数名	因子負荷量:回転後(バリマックス法)	
	第1因子 個性重視・他人との差別化	第2因子 ランドセル否定
男の子は黒色、女の子は赤色のランドセルがいいと思う	-0.3396	-0.1978
「男の子なんだから」「女の子なんだから」と言われるのはいやだ	0.2798	0.0550
派手な服、派手な色が好き	0.6331	0.0521
持ちものは全部すきな色にしたい	0.5720	0.2836
ランドセルの色がいっぱいあってうれしい	0.6685	0.0271
ランドセルではないバッグをもって学校に行きたい	0.0445	0.6566
ランドセルは重くてつかいにくい	0.2104	0.6323
友だちとちがう色のランドセルを使いたい	0.5007	-0.0555
あまり目立ちたくない	-0.0742	0.5242
友だちがみんな持っているものは自分もほしくなる	0.2112	0.2778
固有値	1.7157	1.3120
寄与率(%)	17.16	13.12
累積寄与率(%)	17.16	30.28

因子分析を行った結果、表1に示すような2因子が抽出された。因子負荷量の絶対値に注目し各因子の意味を検討した結果、第1因子は“個性重視・他人との差別化の因子”、第2因子は“ランドセル否定の因子”と解釈した。

## 2) 因子得点の分布

女子および男子小学生のランドセルに対する意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点の位置関係を検討した。第1因子と第2因子の分布図を図4に示す。

第1因子（横軸）については、女子はプラス側に多く分布しており、反対に男子はマイナス側に多く分布していることがわかる。女子は、ランドセルのカラーバリエーションの豊富さに関して肯定的であり、自分がランドセルを使用する際も、友達との同調よりも、自分の好みや個性を重視する傾向が見られる。男子は、ランドセルの色に対してのこだわりや関心は女子より低く、ランドセルや持ち物、服装によって自己主張をしたいという欲求は低いといえる。

第2因子（縦軸）について、因子得点がプラスの被験者とマイナスの被験者の学年別割合を調査し、図5に示した。第2因子がマイナス（ランドセルに肯定的）の小学生は、男女共に1・2年生の低学年が大部分を占めている。新入生にとって、ランドセルは憧れの小学生の象徴であり、ランドセルを背負うことは喜びである。したがって重くて使いにくくてもランドセルで通学したいという気持ちが強い。しかし、中学年（3・4年生）になる頃には、ランドセルに対する特別な感情も薄れており、否定的な考えが強くなっていく。ただし高学年（5・6年生）では、ランドセルの生活に完全に慣れており、否定的な感情もなくなったのではないと思われる。

図4において、第1因子がプラスかつ第2因子がプラスの領域に女子の分布が多く見られる。この生徒たちは、カラーランドセルに肯定的であり、身につける物で個性と自己主張をしたいと願っているが、ランドセルに対しては否定的な考えを持っている。この7名が実際に使用しているランドセルの色を調べたところ、5名は赤色であった。このことから、本心では自分の

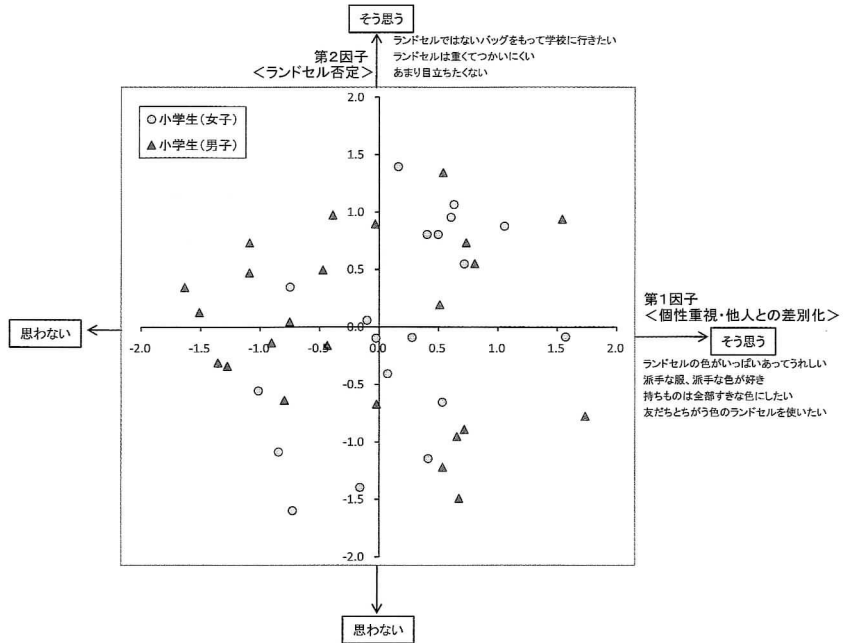


図4 ランドセルに対する意識調査 因子得点の分布 (小学生)

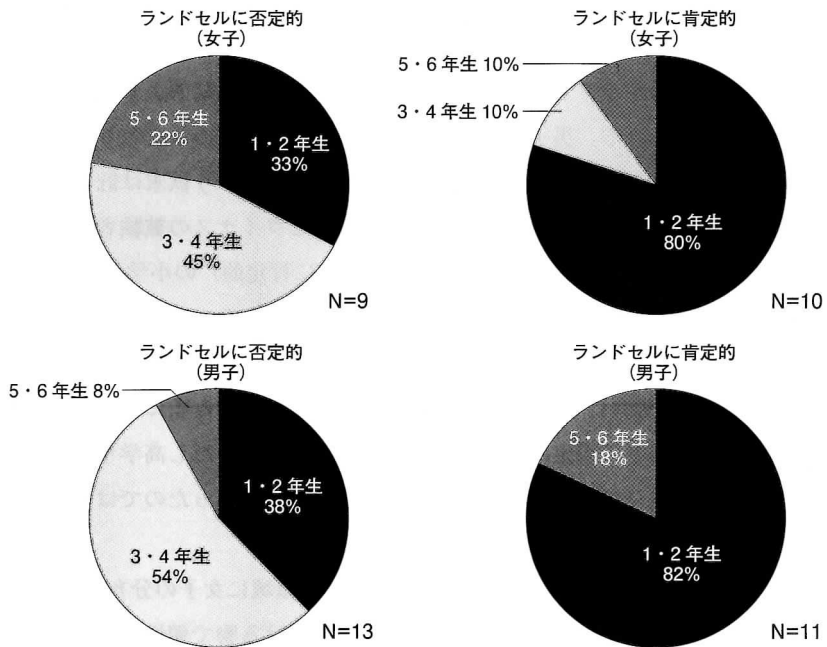


図5 ランドセルに対する肯定・否定意識

※ランドセルに対する意識調査第2因子がプラス（否定的）の被験者とマイナス（肯定的）の被験者の割合を男女別に表示

好きな色のランドセルを使いたいが、実際には定番の赤色を使っている現実への不満が、ランドセルへの否定の意識に現れたのではないかと考える。

## (2) 保護者・大学生の意識

### 1) 因子分析

小学生を持つ保護者および男女大学生のランドセルに対する意識の基本因子をそれぞれ抽出するために、13個の質問項目を変数に、保護者と大学生69名の全評価を観測回数として因子分析を行った。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

表2 因子分析（意識調査/保護者・学生）

因子分析を行った結果、表2に示すような2因子が抽出された。因子負荷量の絶対値に注目し各因子の意味を検討した結果、第1因子は“カラーランドセル奨励の因子”、第2因子は“社会的同調行動とジェンダー意識の因子”と解釈した。

変数名	因子負荷量:回転後(バリマックス)	
	第1因子 カラーランドセル奨励	第2因子 社会的同調行動とジェンダー意識
ランドセルの色も校則で決めてくれたらよいと思う	-0.5425	0.3433
男の子が赤、女の子が黒色のランドセルだと違和感がある	0.0697	0.5898
「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子供に言うのは良くないと思う	0.1333	0.0146
女の子には暖色系、男の子には寒色系の服を着せたい	0.1898	0.4287
子供は周囲から浮いていても個性的である方がよい	0.3701	-0.3939
物を選ぶとき、子供の好みよりも飽きのこないデザイン・色の物を優先する	-0.0218	0.0308
今のランドセルはカラーバリエーションが豊富でいいと思う	0.7168	-0.0563
小学校6年間、同じランドセルを使うべきだ	-0.2720	0.0814
自分の子供が変わった色のランドセルを使いたいと言ったら反対する	-0.4856	-0.1664
今なら自分が使ってみたい色のランドセルがある	0.2043	0.0505
ランドセルは低学年の子供には重くて使いにくい	-0.0767	0.2473
自分の子供が他の子供よりも目立っていると嬉しい	0.4034	0.0111
友達がみんな持っているものは、自分の子供にも持たせてあげたいと思う	0.2009	0.5837
固有値	1.5647	1.2479
寄与率(%)	12.04	9.60
累積寄与率(%)	12.04	21.64

### 2) 因子得点の分布

保護者および大学生のランドセルに対する意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点の位置関係を検討した。第1因子と第2因子の分布図を図6に示す。

第1因子（横軸）をみると、保護者、大学生共にプラスに多く分布していることから、ランドセルのカラーバリエーションが増えることを歓迎しており、自分の子供にも好きな色のランドセルを使わせたいと思っていることがわかる。

しかし、第2因子においては、大学生はプラスに、保護者はマイナスに多く分布しており、両者の意識の違いが明確である。大学生はランドセルや服の色について、女子には女の子らしさ、男子には男の子らしさを求めており、子供へのジェンダー意識がはっきりしている。また、周りの友達と同じ物を持たせたい等、子供の協調性や周囲との同調（周囲から子供が浮かないようにとの気遣い）を重視している。反対に保護者の場合、子供の付和雷同的な行動を嫌い、子供の個性を尊重したいという意識が強い。

学生は第1因子、第2因子共にプラスの領域での分布が目立つ。これらの被験者は、子供がカラーランドセルを使用することを許容してはいるが、性別イメージが異なる色のランドセル

(例えば、男の子が赤やピンク、女の子が黒や青)を使用することに対しては否定的であるといえる。

保護者と学生の意識の違いは、単なる世代(年齢)間のギャップによるものではなく、両者が育ってきた社会環境の違いが影響しているのではないと思われる。本研究での保護者の年齢層は30～40歳までが全体の8割を占めている。いわゆる“団塊ジュニア”と呼ばれる世代であり、同世代の人口はかなり多い。そのため、幼少期から教育現場、受験、就職活動において「競走すること」を経験しており、周囲よりも優位に立つ、勝ち抜くということを余儀なくされてきた。パーソナリティにおいても個性と自己表現が重視され、服装、文化、流行等にもその傾向が見られる(例:「アムラー」、「シャネラー」等の流行)。

保護者と比較して大学生被験者の特徴としては、学習指導要領の改訂により「学校週5日制」「総合学習」「絶対評価」が導入された時期に小中高校を過ごした、いわゆる“ゆとり教育世代”である。少子化が社会問題になった世代であり、そのため学校や受験での競走を経験せずに成長したといえる。経済観念については、平成不況の時代に生まれ育っており、好景気(バブル)や消費社会を経験したことがない。加えて2008年の“リーマンショック”に起因する就職氷河期を目の当たりにしており、節約意識、エコ意識が強い。ファッション・流行についても、ファ

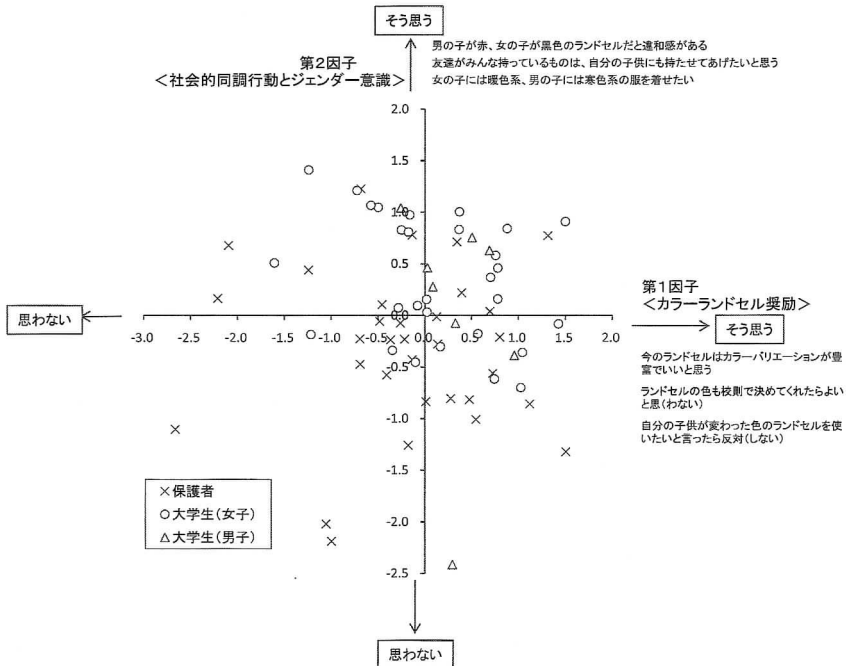


図6 ランドセルに対する意識調査 因子得点の分布 (保護者・大学生)



ストファッション等の安価で無難な定番アイテムを好む傾向が見られる。

以上のような世代による価値観の違いが、子供の個性やカラーランドセルに対する意識の違いに結びついたのではないだろうか。

### (3) ランドセル画像の視覚評価

#### 1) 小学生および保護者

小学生および保護者に「好きなランドセル」を選んでもらった結果を図7に示す。

女子小学生は、画像9（空色）が27%、画像8（ピンク）が25%で、両者が過半数を占めている。定番の赤（画像2）と回答したのはわずか10%であり、女子はパステル系の色を好んでいることがわかる。

男子小学生は、画像5（黒）が29%で最も多く、次いで画像1（青）の21%であった。男子の方が保守的な傾向が強く、無難で男子らしい色を好んでいるといえる。

保護者は、画像2が15%、画像5が14%であり、定番の赤と黒が3割を占めた。次いで画像8が12%、画像9が9%であり、女子生徒同様パステルカラーの人気の高い。このように、保護者は保守的な色を好む被験者と個性的な色を好む人との二極化傾向にあることがわかった。

「嫌いなランドセル」の集計結果（図8）から、女子小学生は画像15の3色（青15%、赤11%、黄9%）が合計35%を占めており、画像7、画像5がこれに続いている。画像15は男の

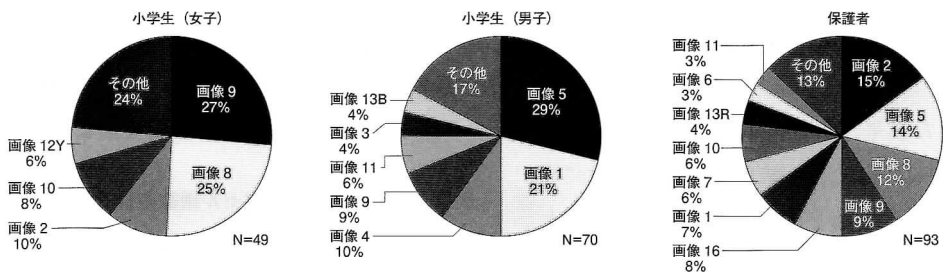


図7 ランドセル画像評価「好きなランドセル」

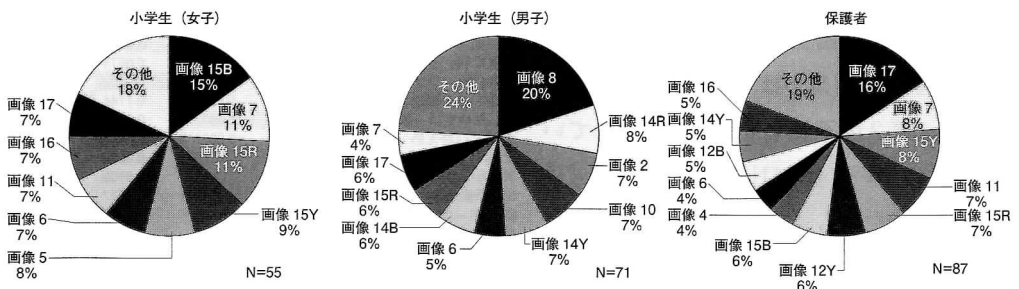


図8 ランドセル画像評価「嫌いなランドセル」

子向けの車のキャラクター柄であり、画像7と画像5は色が茶色と黒であることから、女子は“男の子っぽいイメージ”のランドセルを嫌っているといえる。

男子小学生の結果を見ると、画像8が20%で最も回答が多く、画像14の3色あわせると21%となり画像8の割合を越える。男子は画像14のような女の子向けのキャラクター柄や、赤・ピンク等“女の子っぽいイメージ”のランドセルを「嫌い」と答えており、女子の回答と同様の傾向が見られた。

保護者が「嫌い」と回答したランドセルは、画像17が最も多く、高級海外ブランドの総柄はランドセルには最もふさわしくないと評価していることがわかる。その他は画像7、画像11等の茶色や白といった、子供らしくない落ち着いた色のランドセルであった。

「6年間使えるランドセル」の回答を集計した結果、小学生女子と保護者は共に、画像2、画像5、画像1の順で回答が多く、小学生男子は、画像5、画像1の順に回答が多かった。このことから、女子生徒と保護者は赤と黒のランドセルが小学校生活の6年間通して使用できると評価しており、社会的な常識・概念等を考慮した客観的な視点から判断しているのに対して、男子は「好きなランドセル」の質問と同じく黒と青のランドセルを選んでおり、主観的な嗜好(好き嫌い)の中に実用的な要因が含まれているといえる。

## 2) 因子分析および因子得点の分布

ランドセル画像に関する基本因子を抽出するために、16個の形容語対を変数に、大学生被験者37名の17種のランドセル画像に対する評価を観測回数として因子分析(バリマックス回転法)を行った結果、表3に示すような固有値1.0以上の3因子が抽出された。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は“好感度の因子”、第2因子は“視覚的インパクトの因子”、第3因子は“ハイセンスの因子”と解釈した。

各因子の因子得点を算出し、第1因子と第3因子の位置関係を図9示した。画像2(赤)と画像5(黒)は、第1因子がプラスでかつ、第3因子がマイナスに分布している。定番のランドセルは「親しみやすい」、「子供に使わせたい」、「子供らしい」と評価されていることがわかる。画像17は第1因子がマイナスであり、第3因子がプラスに高

表3 因子分析(ランドセル画像の視覚評価)

変数名	因子負荷量:回転後(バリマックス法)		
	第1因子	第2因子	第3因子
好き—嫌い	0.8037	0.1199	-0.0934
派手—地味	0.0646	0.7585	0.1050
子供らしい—子供らしくない	0.4501	0.3388	-0.5996
おしゃれ—ダサい	0.6787	0.3949	-0.1309
個性的—平凡	-0.1201	0.6022	0.4797
子供に使わせたい—使わせたくない	0.8520	0.0071	-0.1949
かわいい—シック	0.4041	0.6002	-0.2596
高級—お手頃な	0.0269	0.1144	0.6614
親しみやすい—親しみにくい	0.0803	-0.0714	-0.4540
大胆—ひかえめ	-0.0621	0.6855	0.1859
上品—下品	0.5520	-0.0556	-0.4381
まじめ—ふまじめ	0.5538	-0.5103	-0.0324
6年間使える—使えない	0.6012	-0.3417	0.0730
都会的—カントリー	0.1648	0.2964	0.5997
新鮮—定番	-0.1946	0.4748	0.5671
性別がはっきりしている—男女兼用	0.0897	-0.0134	-0.4879
固有値	3.7302	2.7652	2.5276
寄与率(%)	23.31	17.28	15.80
累積寄与率(%)	23.31	40.60	56.39

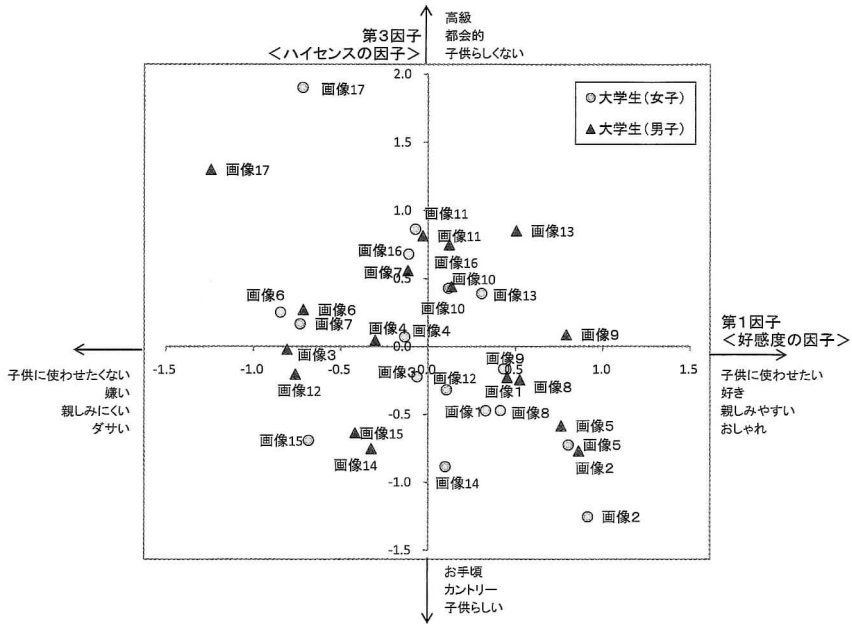


図9 ランドセル画像の視覚評価 因子得点の分布（第1因子と第3因子）

い値を示している。画像17はヴィトンのモノグラム柄であるが、海外高級ブランド柄の場合、高級感があり、センスが高い印象が強いが、子供には使わせたくないと評価されている。特に男子学生の好感度は全画像の中で最も低い値を示している。

女子学生と男子学生の評価を比較すると、画像3、画像12、画像17は男子よりも女子の方が第1因子が高い値を示している。色や柄にインパクトがあり個性的なランドセルに対しては、女子学生の方が寛容であるといえる。反対に画像7は女子学生の方が第1因子が低いことから、地味で落ち着いた色のランドセルへの好感度が低く、子供に使わせたくないと評価しているといえる。このように、女子大学生はランドセルに対してファッション性を重視する傾向があり、小学生女子の意識評価における「好きな色のランドセルで自己主張したい」という意識の強さとの共通性がみられた。

## まとめ

小学生とその保護者、および男女大学生を対象に、ランドセルに対する意識調査、およびランドセル画像の視覚官能評価を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 小学生が使用しているランドセルの色を調査した結果、女子は過半数が赤色であり、それ

- 以外はピンク系の色を使用していた。男子は8割が黒色のランドセルを使用していた。
2. 女子小学生は、カラーランドセルの使用に対して、自分の好みを重視するが、男子は女子に比べ、ランドセルの色に対する関心や服装による自己主張欲求が低かった。
  3. 低学年（1・2年生）の生徒はランドセルに肯定的であるが、中学年（3・4年生）の生徒はランドセルへの否定的な考えが強くなる傾向がある。
  4. 保護者、大学生共にカラーランドセルの使用について積極的な考えを持っているが、子供のジェンダー意識については、大学生の方が保守的であり、周囲との協調性を重視しているのに対して、保護者は性別イメージに拘らず、子供の個性を尊重しようとする意識が強い。
  5. 「好きなランドセル」を回答してもらった結果、女子小学生はパステル系の色を選ぶ生徒が過半数を占めたのに対して、男子は黒を選んだ生徒が最も多く、男子の方が保守的な傾向が強いことがわかった。
  6. 「嫌いなランドセル」については、女子・男子共に、自分の性別と反対のイメージを持つ色や柄のランドセルを否定する傾向がみられた。
  7. 「6年間使えるランドセル」について、女子小学生と保護者は社会的な常識・概念等を考慮し客観的に判断しているのに対して、男子小学生はランドセルの実用性の中に主観的な嗜好が含まれているといえる。
  8. ランドセル画像のイメージを比較した結果、赤と黒の定番のランドセルは親しみやすく、子供に使わせたい、子供らしいと評価されていた。また、女子大学生がランドセルに対してファッション性を重視する傾向と、女子小学生の「好きな色のランドセルで自己主張したい」という意識との間に共通性がみられた。

アンケートにご協力いただいた小学校生徒のみなさん、保護者の方々、学生の皆様にお礼を申し上げます。

## 文 献

三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第1報) —パンツ・スタイル画像の視覚評価—」, 広島女学院大学論集, 第56集, 2006年12月, pp.97-108

三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第2報) —パンツ・スタイルのイメージとジェンダー意識の関係—」, 広島女学院大学生生活科学部紀要, 第14号, 2007年3月, pp.1-14

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

国立社会保障・人口問題研究所 <http://www.ipss.go.jp/>

イオン <http://www.aeon.info/>

トップバリュ 24色ランドセル <http://www.topvalu.net/special/24top>

セイバン <http://www.randoseru.ne.jp/>